

2014 年 4 月 25 日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る東海経済（2014 年 4 月）

【今月の景気判断】

東海経済は増税前の駆け込み需要もあり持ち直している。輸出は減少傾向が続いており、駆け込み需要に伴う生産の増勢も一服している。しかし、雇用は、求人倍率の上昇に一服感が出ているものの、緩やかな回復が続いており、緩やかな所得増に駆け込み需要も加わって個人消費は持ち直している。一方、住宅投資は徐々に減少しており、公共投資の増加も一服している。

今後は、自動車販売や高額消費を中心に増税後の反動が避けられないが、大企業を中心とした賃上げ率の高まりや夏季賞与の増加など所得面の改善により、消費者マインドの低下に歯止めがかかり、消費の持ち直しが見込まれる。輸出は減少傾向が続くが、設備投資は製造業を中心に増加が見込まれる。公共投資も消費増税に伴う対策による効果が見込まれ、景気は持ち直しを続けるだろう。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↘	輸出	↘	☁	→
個人消費	↗	☁	↘	輸入	↗	☁	↘
住宅投資	↘	☁	↘	生産	↗	☁☀	↘
設備投資	↗	☁	→	雇用	→	☁	→
公共投資	→	☁	↗	賃金	↗	☁	↗

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米中および新興国の景気先行き、日米の金融政策、ウクライナ情勢に伴う為替・株価への影響
- ・企業活動～消費増税後の生産活動の動向、設備投資の企業規模や業種における広がり、米中向け輸出
- ・家計～増税後の駆け込み需要の反動減、食品・エネルギー等の物価上昇、賃金の持ち直し時期

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 [名古屋] シニアエコノミスト 内田俊宏

〒461-8516 名古屋市東区葵1丁目 19-30

TEL:052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	3月のコメント	4月のコメント	ページ
1．景気全般	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	3～4
2．生産	増税前の駆け込み需要により 増加している	増税前の駆け込み需要による 増勢は一服	5～7
3．雇用	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している	7～8
4．賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9
5．個人消費	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	10～11
6．住宅投資	緩やかに減少している	緩やかに減少している	12
7．設備投資	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している	12～13
8．公共投資	増加が一服している	増加が一服している	13
9．輸出入	輸出は減少、輸入は増加	輸出は減少傾向、輸入は増加傾向	14～15
10．物価	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇	15
11．金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12．倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数は減少、負債総額は増加	16

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

（＊）参考資料：「グラフで見る景気予報」

<http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>
【前月からの変更点】
2．生産

東海3県の2月の鉱工業生産指数は、増税前の駆け込み需要による増勢が一服し、前月比 - 2.6%と2ヶ月ぶりに減少した。駆け込み需要に伴う生産増のピークは過ぎたとみられる。

9．輸出入

2月の実質輸出（季調済）は、前月比 + 2.5%と2ヶ月ぶりに増加したが、3月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比 + 2.5%と大きく伸びが鈍化した。米国向けの増加が一巡しており、当面は減少傾向での推移が予想される。一方、2月の実質輸入（季調済）は前月比 - 3.1%と4ヶ月ぶりに減少したが、変動しながらも増税前の駆け込み需要もあり増加傾向で推移している。3月の名古屋税関管内の輸入額は前年比 + 22.1%と12ヶ月連続で増加した。

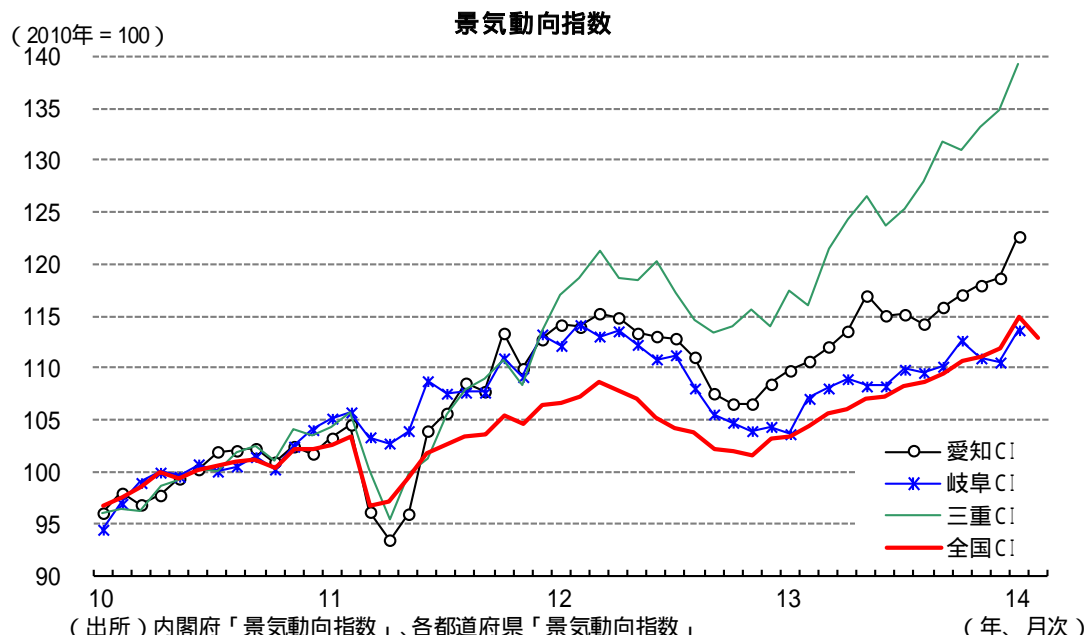
【主要経済指標の推移】

経 済 指 標		13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 10-12	14 1-3	13 10	13 11	13 12	14 1	14 2	14 3
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	110.9	115.2	115.1	117.9	119.8	117.1	118.0	118.7	122.7		
	岐阜（C I、一致指数）	106.3	108.5	109.9	111.4	111.8	112.7	111.0	110.6	113.7		
	三重（C I、一致指数）	118.3	124.9	128.4	133.1	135.8	131.1	133.2	134.9	139.3		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	52.8	54.5	52.3	55.7	57.1	52.6	56.2	58.4	56.6	54.6	57.0
	（先行判断DI）	55.4	55.4	53.7	54.4	52.0	53.9	53.1	56.2	46.6	40.4	34.6
	短観業況判断DI（大企業製造業）	-3	7	17	19	28	3 <6月予想>					
	（中小企業製造業）	-22	-11	-3	8	13	-9 <6月予想>					
生産	（非製造業）	-2	2	9	12	17	3 <6月予想>					
	法人企業統計経常利益 製造業（兆円）	0.5	1.1	0.8	0.9							
	非製造業（兆円）	0.2	0.2	0.3	0.2							
	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	4.5	1.7	0.8	-0.5		-1.5	-1.3	2.1	8.0	-2.6	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	5.3	3.5	0.5	-0.6		-0.8	-0.5	0.7	7.3	-4.4	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	-4.1	-1.1	0.9	-3.1		-2.4	-3.0	-0.3	0.6	3.7	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	10.7	0.1	-3.1	1.0		0.7	-2.2	0.7	12.5	-6.1	
	一般機械（ " ）	-4.5	5.7	-0.3	5.4		1.5	1.6	0.6	12.1	-4.2	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	3.1	6.9	3.8	-5.7		-11.0	2.6	6.2	8.5	6.3	
	プラスチック製品工業（ " ）	2.8	0.5	-0.2	2.9		1.2	-1.3	0.4	7.4	0.7	
	化 学（ " ）	9.6	-2.8	-3.4	-1.0		6.2	-3.9	-1.5	2.6	-2.7	
	電気機械（ " ）	4.3	-2.1	5.6	3.3		2.3	-0.3	1.1	5.1	0.1	
	鉄 鋼（ " ）	6.5	3.5	-3.5	3.8		-1.4	0.8	5.2	-1.7	-3.3	
	金属工作機械受注 総受注（億円）	290.0	322.5	352.2	360.8		361.0	358.4	363.1	329.0	316.0	
雇用	国内受注（億円）	80.4	93.8	113.2	122.8		120.5	127.4	120.6	104.9	105.7	
	海外受注（億円）	209.6	228.7	239.0	241.2		240.5	240.5	242.6	224.1	210.3	
	大口販売電力量	-6.3	-1.7	0.2	3.6		4.7	2.5	3.7	6.2	4.5	
	完全失業率（原数値、%）	3.4	3.5	3.1	3.3							
	就業者数（原数値、万人）	762	773	778	774							
	常用雇用指数 愛知	99.4	100.1	100.2	100.2		100.0	100.4	100.3	100.1		
	岐阜	98.7	99.0	98.9	98.5		98.5	98.7	98.4	97.5		
	三重	96.8	97.8	98.9	98.0		98.4	97.8	97.9	97.5		
	有効求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	1.17	1.3	1.36	1.5		1.40	1.46	1.50	1.49	1.53	
	岐阜（季節調整値、倍）	0.99	1.1	1.11	1.2		1.16	1.20	1.22	1.22	1.23	
	三重（季節調整値、倍）	0.90	1.0	1.07	1.2		1.12	1.16	1.19	1.19	1.21	
	新規求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	1.84	2.0	2.09	2.3		2.21	2.23	2.37	2.21	2.41	
	岐阜（季節調整値、倍）	1.51	1.7	1.66	1.7		1.74	1.76	1.72	1.88	1.81	
	三重（季節調整値、倍）	1.41	1.6	1.63	1.8		1.72	1.81	1.81	1.68	1.81	
賃金	現金給与総額	-0.5	1.2	0.9	2.1		1.8	1.3	2.7	0.5		
	所定内給与	-0.1	0.8	0.3	0.6		0.8	0.6	0.2	0.2		
	所定外給与	-4.0	-0.4	3.6	8.4		8.4	8.9	7.8	4.5		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入 勤め先収入	5.7	6.6	1.8	7.0		8.3	11.5	4.3	0.9	1.0	
	定期収入	3.5	-0.4	2.9	8.9		10.6	6.1	10.0	-0.6	-0.9	
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出	11.8	2.7	3.1	4.8		12.8	-2.9	4.6	6.6	13.0	
	百貨店販売額（名古屋市内）	3.6	7.8	4.0	5.4	19.8	2.0	8.3	5.7	7.8	11.8	37.3
	百貨店＋スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く）	-2.4	1.1	3.2	3.0		4.3	2.7	2.3	3.0	5.9	
	コンビニエンスストア販売額	-1.4	0.3	0.3	1.4		0.1	2.3	1.9	-1.5	-0.2	
	新車登録台数（含む軽）	-10.4	-9.0	3.5	19.8		21.7	15.3	23.0	33.8	16.8	
	家電販売額	-4.0	2.3				3.6	4.6	-1.9	12.0	28.1	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	43.7	46.3	45.0	41.1	39.1	41.4	41.9	40.0	41.2	38.3	37.7
	トヨタ国内生産台数（季節調整値、万台）	29.7	29.1	27.5	26.0	30.4	27.1	26.0	24.8	31.3	30.4	29.5
住宅投資	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸）	106.7	114.6	121.5	119.4		117.2	123.4	117.6	113.5	105.9	
	（前年比、%）	8.4	18.1	19.7	11.7		7.0	17.3	11.5	5.8	-1.4	
設備投資	法人企業統計設備投資（製造業）	12.3	10.1	30.3	24.8							
	（非製造業）	17.9	-7.0	-12.9	0.8							
企業立地件数		-	-	-	-		11		17			
公共投資		-4.5	6.5	26.7	5.4	-2.1	6.1	-2.5	13.0	-11.2	13.6	-4.3
輸出入	実質輸出（季節調整済、07/12=100）	82.5	87.4	86.9	88.6		89.9	87.7	88.1	84.6	86.7	
	通関輸出（金額ベース、円建て）	6.7	10.9	16.6	22.0	7.2	23.9	22.0	20.1	13.0	7.3	2.5
	実質輸入（季節調整済、07/12=100）	95.2	97.3	98.0	95.1		92.0	96.1	97.1	104.6	101.4	
	通関輸入（金額ベース、円建て）	5.7	6.7	11.1	22.2	20.0	23.8	18.7	24.0	25.3	12.3	22.1
物価	消費者物価指数（除く生鮮）	-0.3	-0.1	0.6	1.1		0.9	1.2	1.3	1.1	1.3	
	（食料及びエネルギーを除く総合）	-0.7	-0.3	0.0	0.8		0.5	0.8	1.0	0.8	1.0	
金融	国内銀行預金残高	1.1	1.6	1.9	2.6		1.8	3.4	2.6	2.9	2.6	
	国内銀行貸出残高	0.0	1.6	2.3	2.4		2.4	3.3	1.5	1.7	1.8	
倒産		-8.9	-12.5	-13.3	13.9	-5.9	58.5	0.0	-11.4	0.0	6.1	-18.8

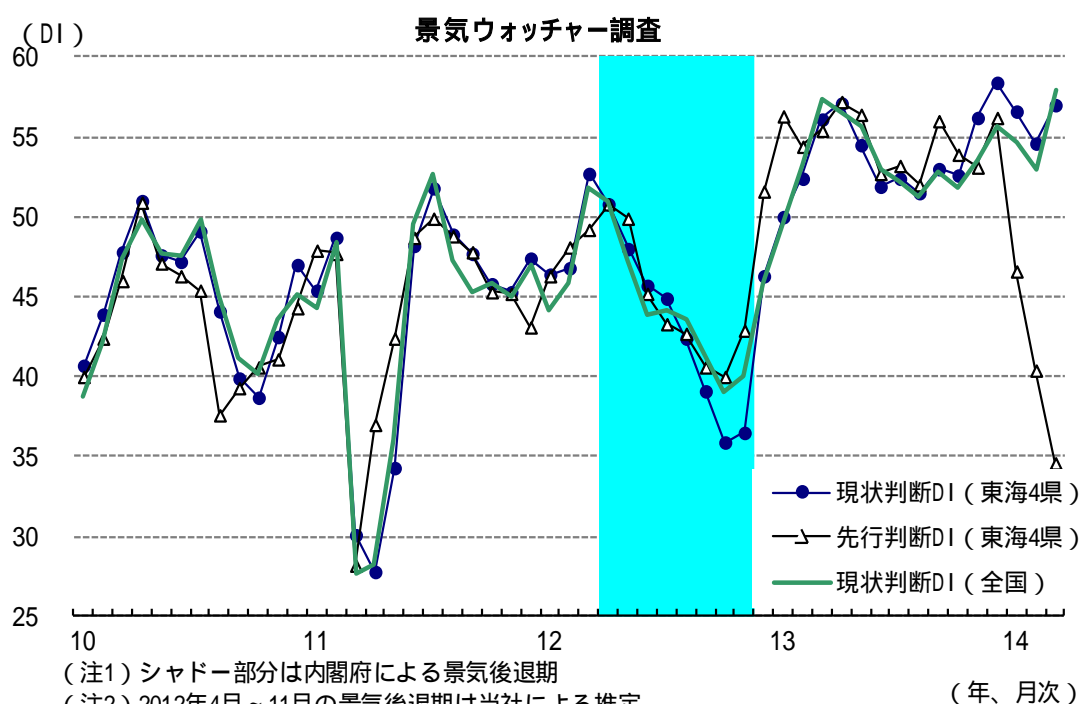
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ～増税前の駆け込み需要もあり持ち直している

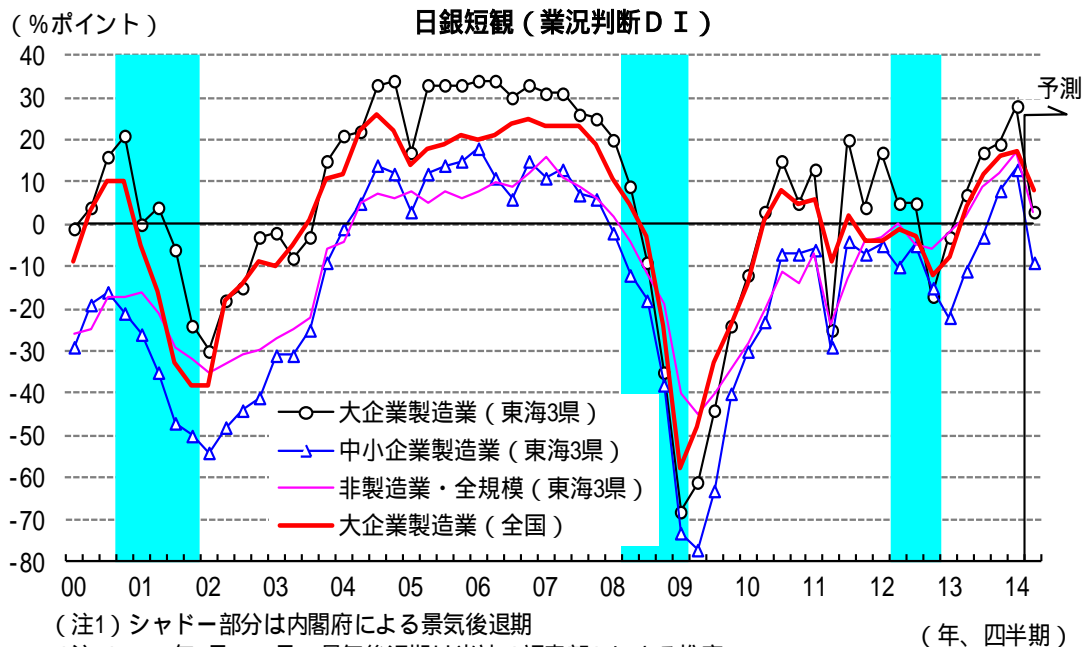
1月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち6系列でプラス寄与となり、前月差+4.0ポイントと5ヶ月連続で上昇した。岐阜県も前月差+3.1ポイントと3ヶ月ぶりの上昇、三重県も前月差+4.4ポイントと3ヶ月連続で上昇した。増税前の駆け込み需要に伴い、3県ともに大幅な上昇となった。先行指数は、3県ともに低下している。



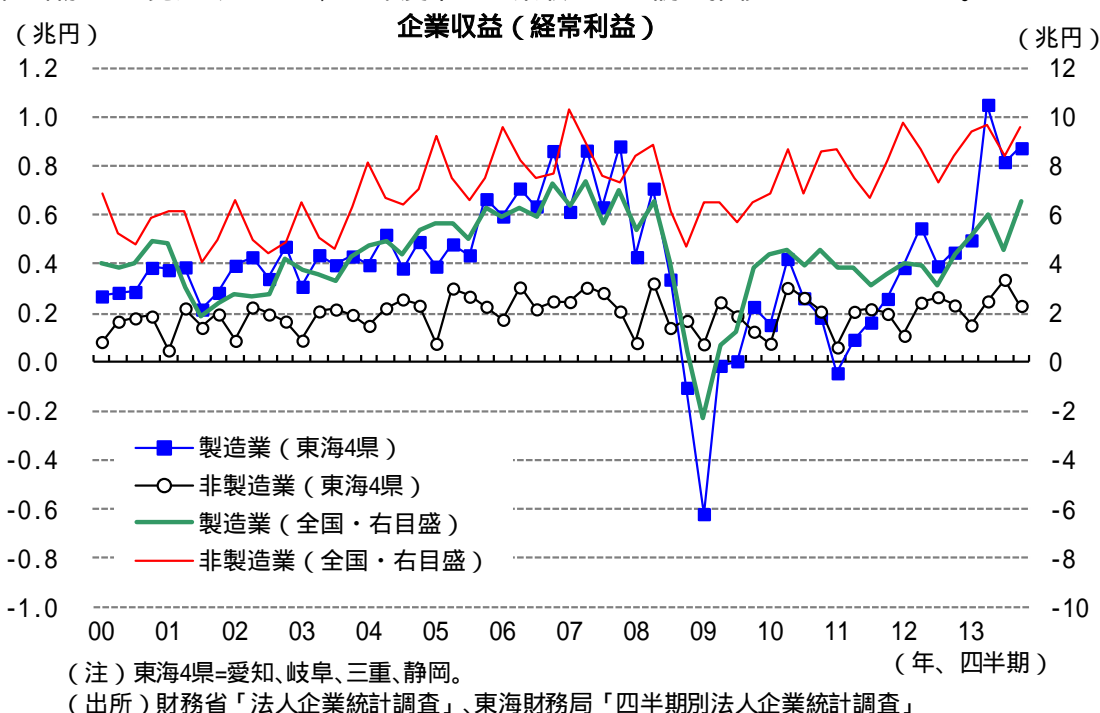
3月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、増税前の駆け込み需要もあり、足元の景況感を示す現状判断DIが前月差+2.4ポイントと上昇した。家計動向関連の現状判断DIは同+2.6ポイントと3ヶ月ぶりに上昇した。東海4県の先行判断DIは、消費増税後の景気の落ち込みを懸念し、同-5.8ポイントと大幅に低下している。4月以降の景気の先行きに対する警戒感は引き続き高い。



日銀短観 3 月調査では、東海 3 県の大企業製造業の業況判断 D I (「良い」 - 「悪い」) は +28 と、前回調査から 9 ポイント改善した。全国を上回る伸びで、リーマンショック後の水準をほぼ回復した。中小企業製造業も +13 と 5 ポイント改善した。業況判断 D I の 6 月予測は、増税後の反動を想定し、大企業製造業は +3 と 25 ポイントの悪化、中小製造業でも -9 と 22 ポイントの悪化が見込まれている。

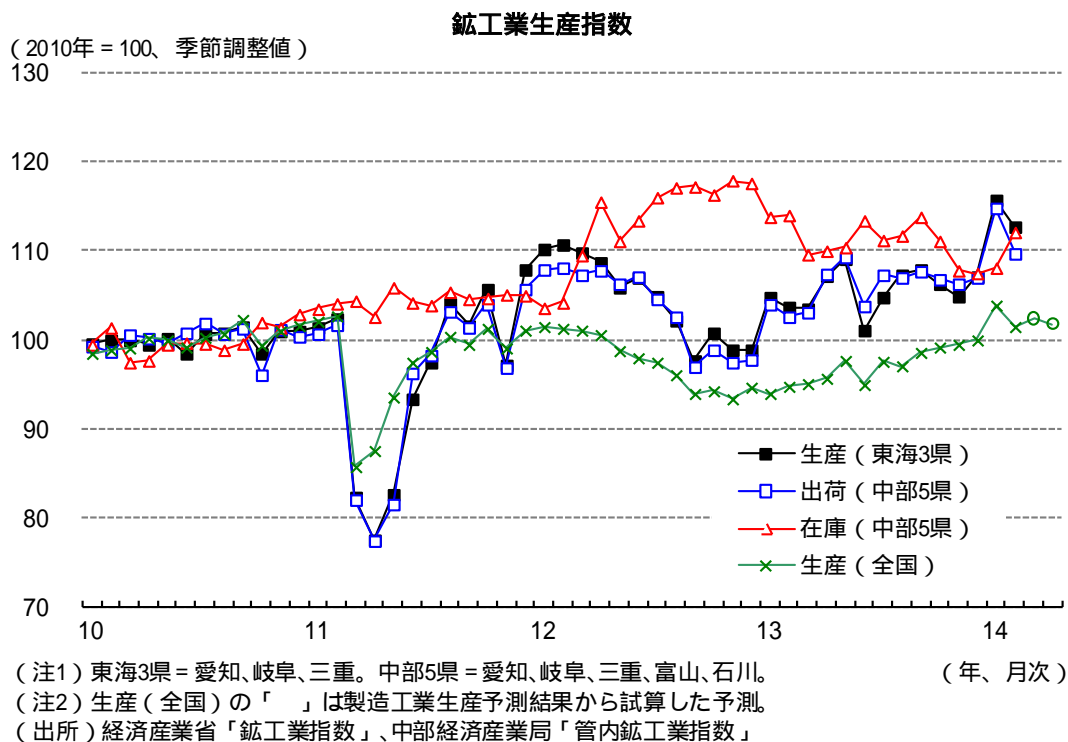


2013年10～12月期の東海4県の企業収益 (経常利益、製造業) は前期と同様に大幅な増益となった。円安に加え、米国や東南アジア向けの輸出が堅調に推移したためとみられる。非製造業は前年同期比で -0.8%と減少した。消費増税前の駆け込み需要に備えてトヨタの生産 (季調済) が14年1～3月期に大幅に増加した見込みであり、13年度中の企業収益は堅調に推移したと思われる。

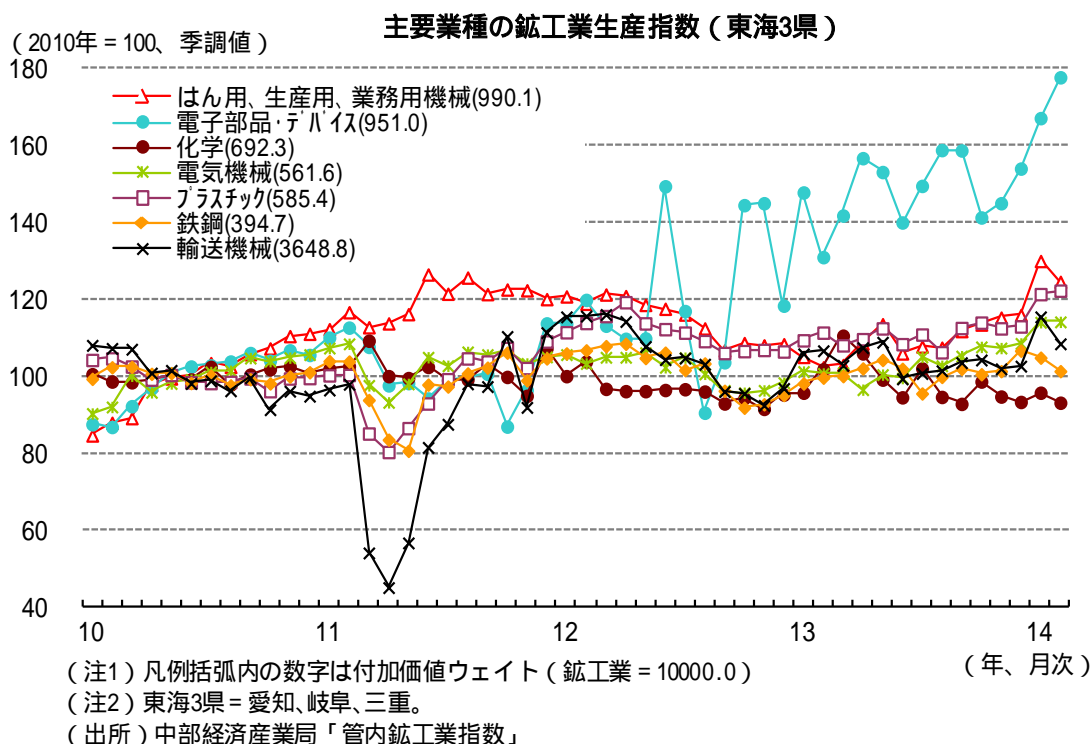


2. 生産 ～増税前の駆け込み需要による増勢は一服

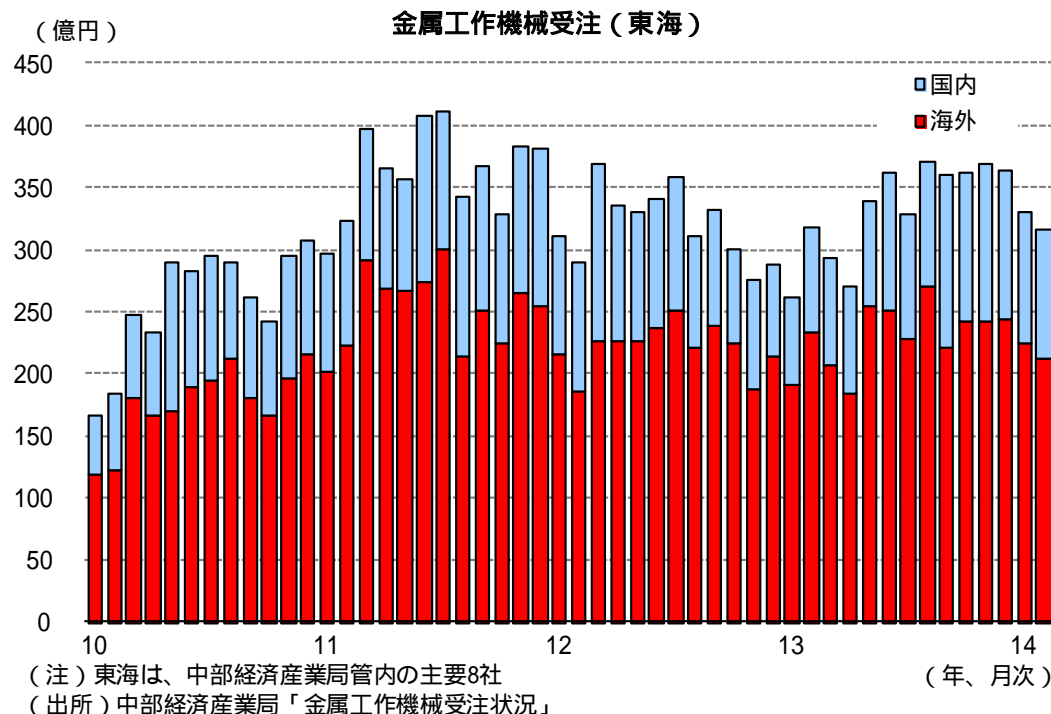
東海3県の2月の鉱工業生産指数は、増税前の駆け込み需要による増勢が一服し、前月比 - 2.6%と3ヶ月ぶりに減少した。年度末までは比較的高い生産水準で推移した見込みだが、駆け込み需要に伴う生産増のピークは過ぎ、4月以降は自動車販売の大幅な落ち込みに合わせて、自動車を中心に鉱工業全体での生産減が予想される（P.11下図 トヨタ国内生産計画参照）。



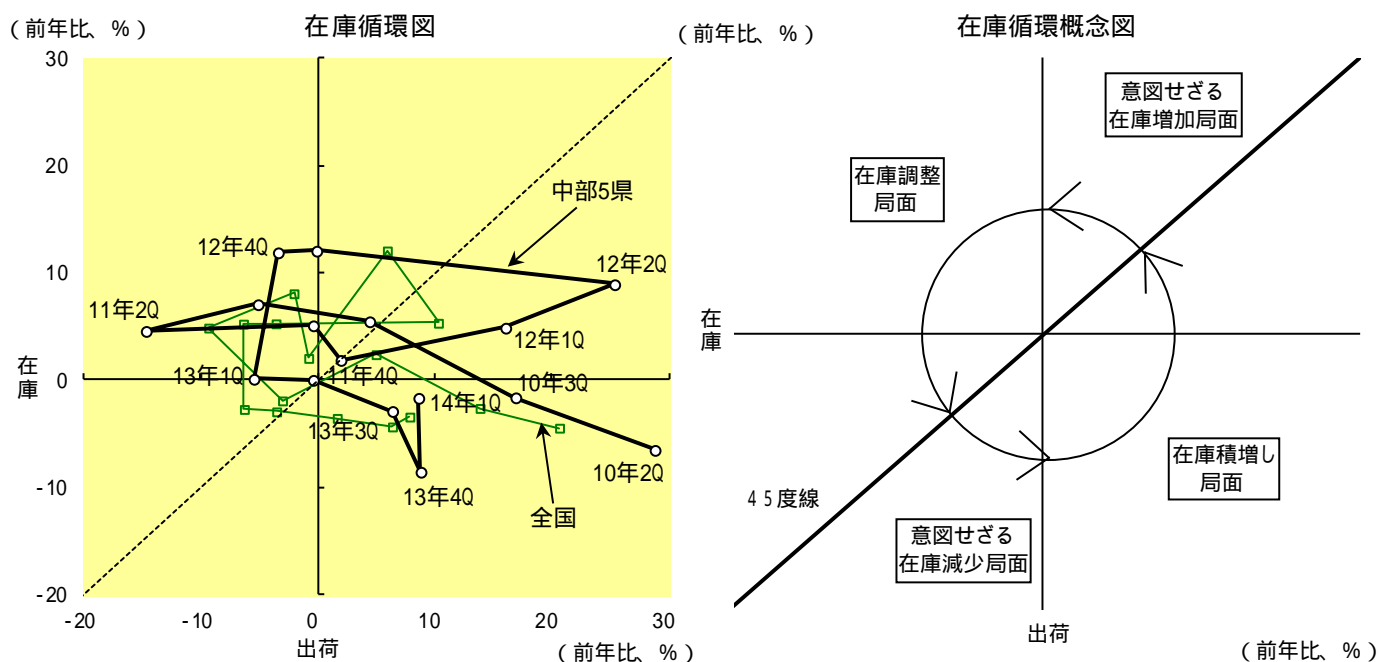
業種別では、乗用車（前月比 - 7.8%）が2ヶ月ぶりに低下したほか、自動車部品（同 - 7.2%）も低下し、輸送用機械全体で同 - 6.1%と3ヶ月ぶりに低下した。自動車向けも多い鉄鋼（同 - 3.3%）やはん用・生産用・業務用機械（同 - 4.2%）も低下した。一方、航空機部品（同 + 14.4%）、電子部品・デバイス（同 + 6.3%）、プラスチック（同 + 0.7%）などは上昇した。



2月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比 - 0.5%と7ヶ月ぶりに減少した。国内受注は自動車向けを中心に同 + 24.7%と7ヶ月連続で増加したが、海外受注は同 - 9.6%と5ヶ月ぶりに減少した。欧州向け（同 + 44.2%）は持ち直し傾向が続くが、最大シェアの中国（同 - 16.5%）向けを含むアジア全体で同 - 4.6%と減少したほか、米国向け（同 - 34.9%）も振るわなかった。

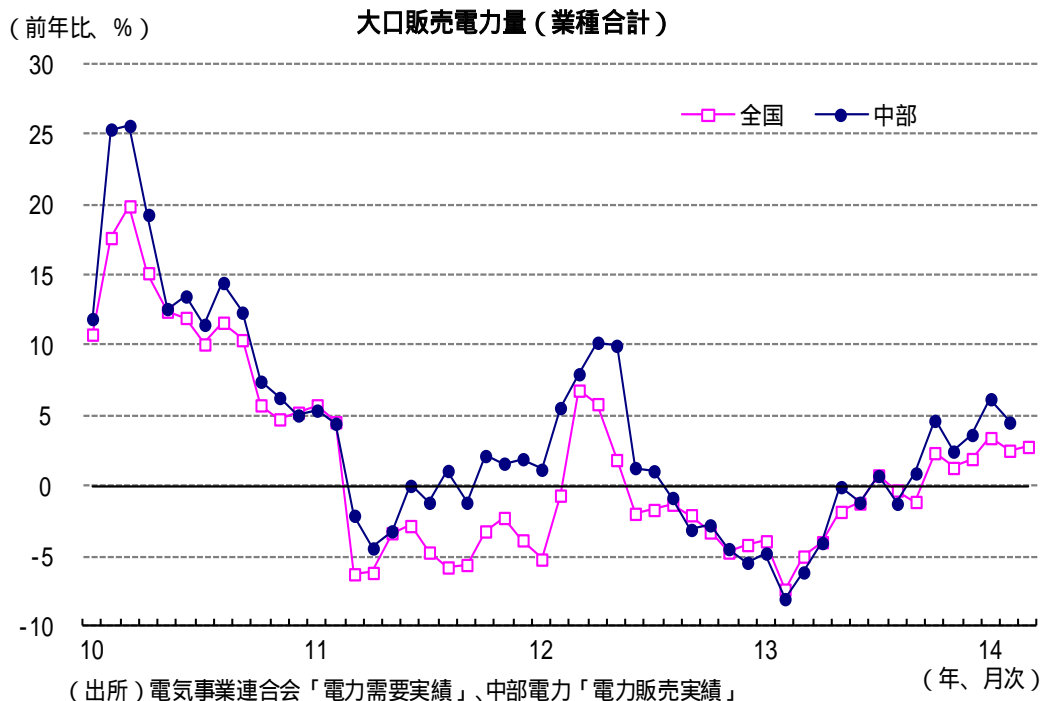


2月の中部5県の出荷は、前月比 - 4.4%と3ヶ月ぶりに減少した。輸送機械や鉄鋼業、はん用・生産用・業務用機械などが減少した。在庫は、同 + 3.7%と2ヶ月連続で増加した。電子部品・デバイス、石油・石炭製品工業などで増加した。製造業全体では、出荷の減少に伴って在庫が増加している。



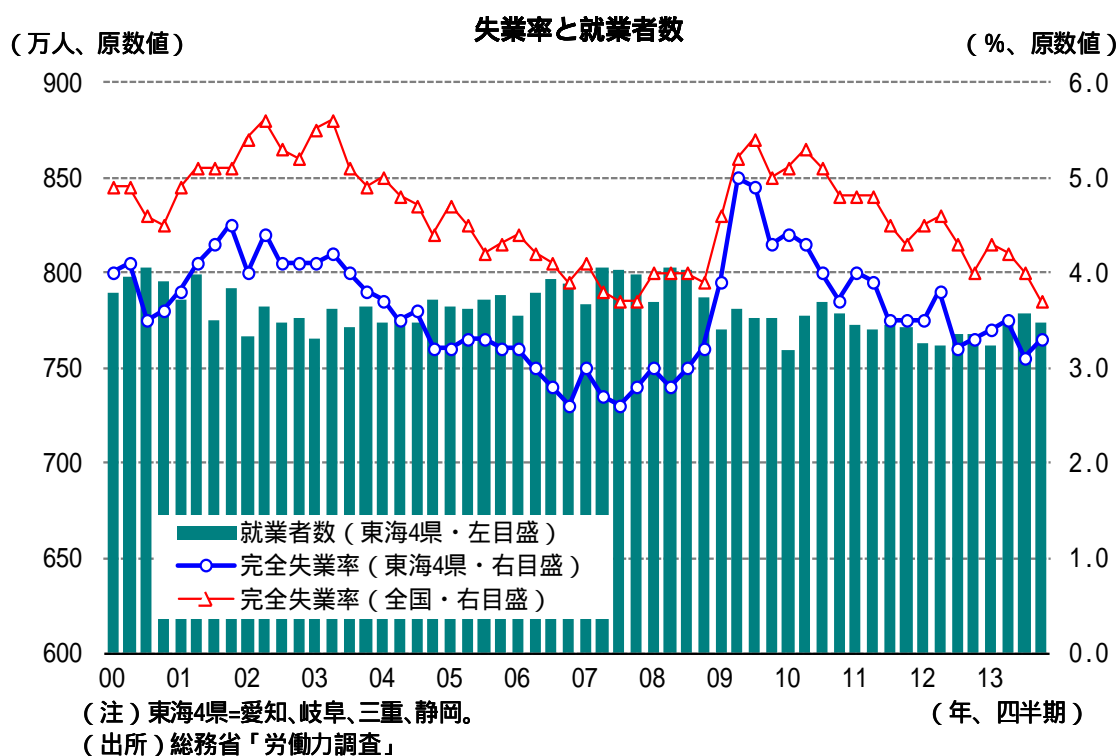
（注1）数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。
（注3）直近14年1Qの出荷は1、2月平均、在庫は2月の前年比
（出所）経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

2月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比+4.5%と6ヶ月連続で増加した。自動車などの機械工業向けが同+6.0%と8ヶ月連続で増加した。自動車用鋼材や建築用鋼材の生産増が続いている鉄鋼業向けは、同+14.5%と6ヶ月連続で増加した。自動車部品を含む窯業・土石向け（+3.8%）も増加している。

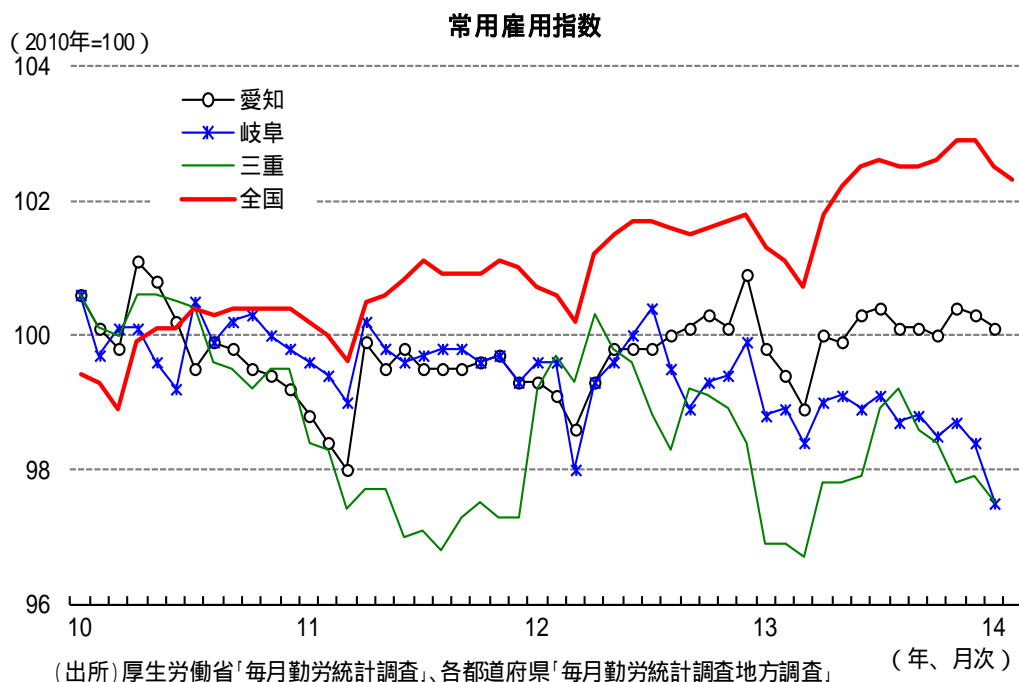


3. 雇用 ～持ち直しが一服している

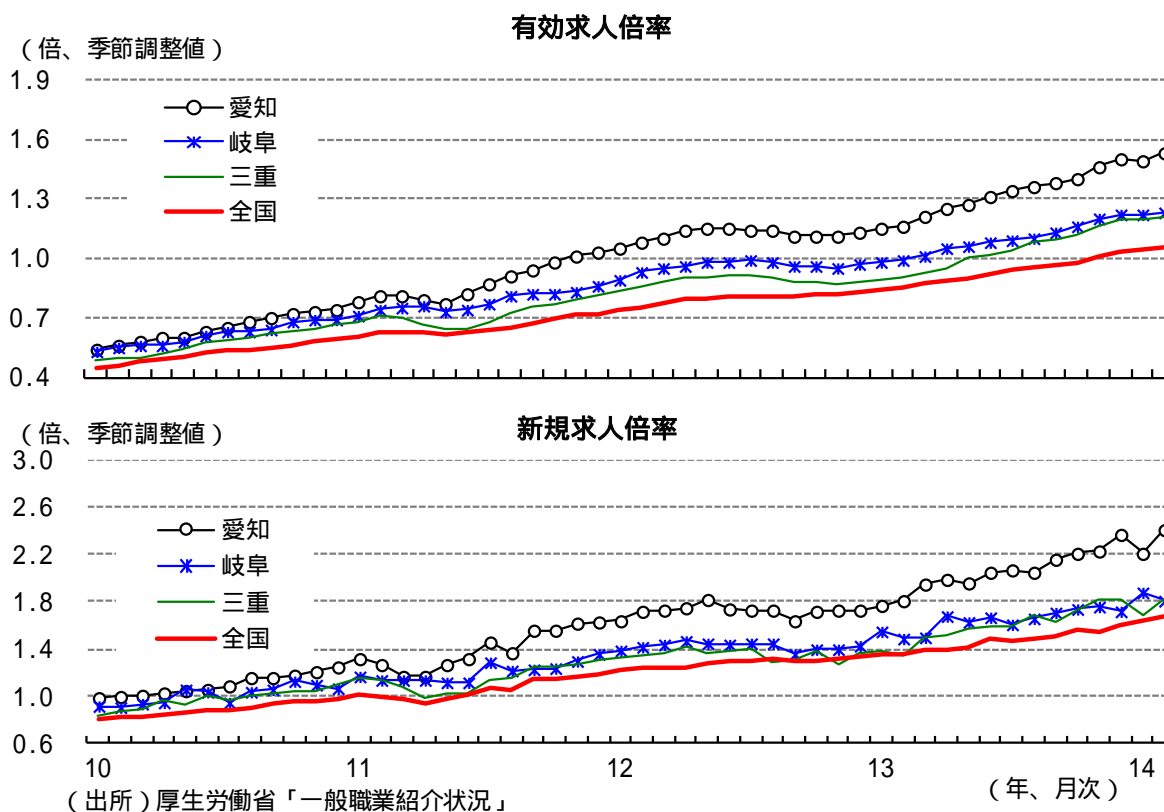
2013年10～12月期の東海4県の完全失業率は3.3%（前年差±0%ポイント）と全国（3.9%）と比べて低水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前年差6万人の増加となった。常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いており、足元では東海3県とも前年比低下している。改善が続いていた愛知県の有効求人倍率と新規求人倍率は横ばい圏で推移している。



1月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.3%と2ヶ月ぶりに上昇した。三重県も同+0.6%と5ヶ月ぶりの上昇となったが、岐阜県は同-1.3%と10ヶ月連続で低下している。全国(同+1.2%)の改善に比べて依然として弱い動きが続いている。

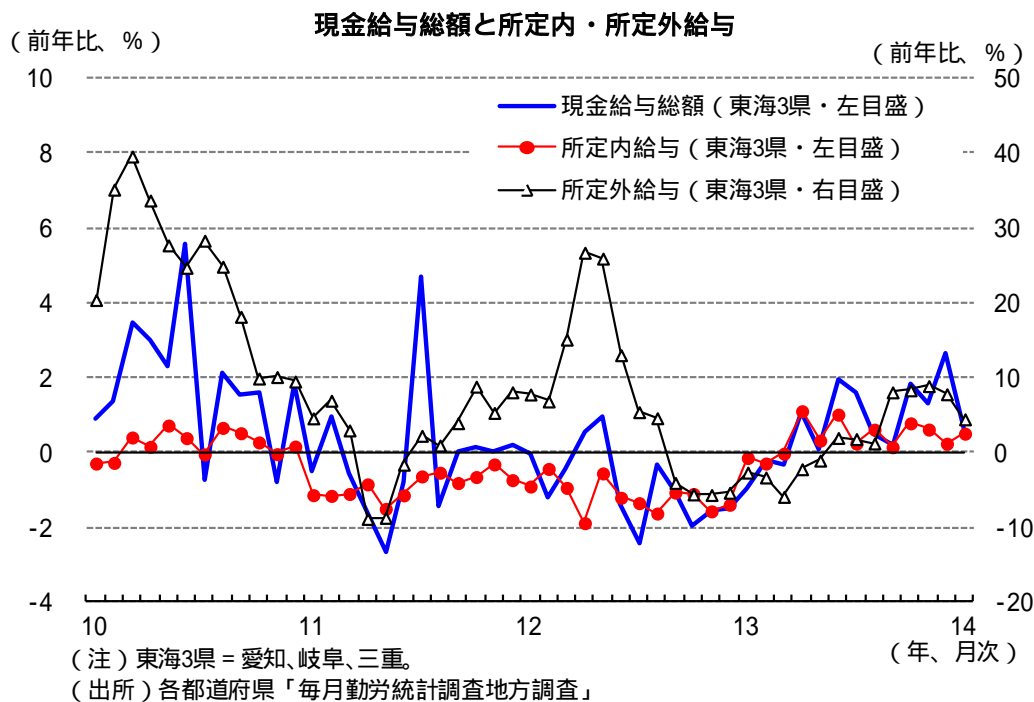


2月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県が1.53倍と2ヶ月ぶりに上昇し、3ヶ月連続で全国トップとなった。岐阜県は1.23倍、三重県は1.21倍と2ヶ月ぶりに上昇した。新規求人倍率(同)は、愛知県が2.41倍、三重県も1.81倍とそれぞれ2ヶ月ぶりに上昇した。一方、岐阜県は1.81倍と2ヶ月ぶりに悪化した。

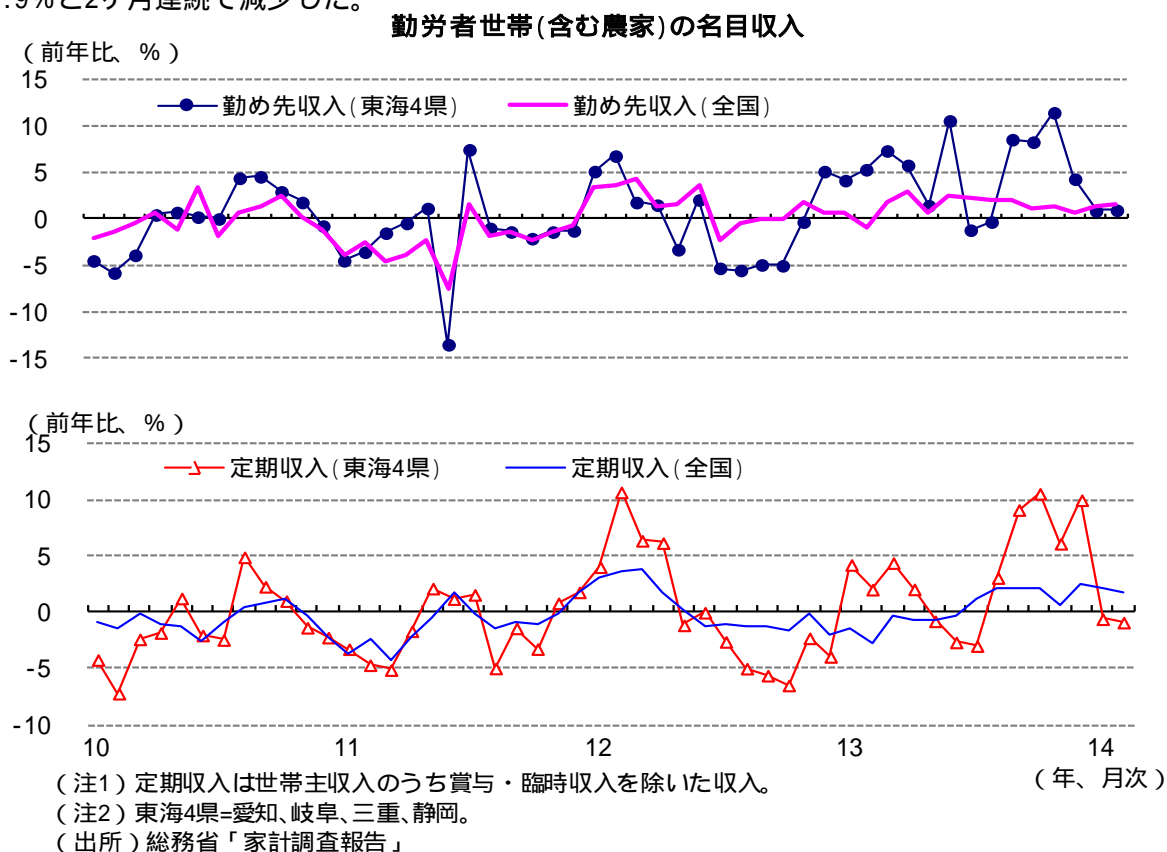


4. 賃金 ～緩やかに持ち直している

1月の一人当たり現金給与総額は、前年比+0.5%と増加し10ヶ月連続のプラスとなった。所定内給与も同+0.2%と10ヶ月連続で増加し、所定外給与も同+4.5%と8ヶ月連続で増加した。企業の人件費抑制姿勢は中小・零細企業を中心に根強いが、政府の賃上げ要請に応え、春闘では定昇に加えベアを実施する企業が大企業を中心に増え、賃金は持ち直し傾向が続くだろう。

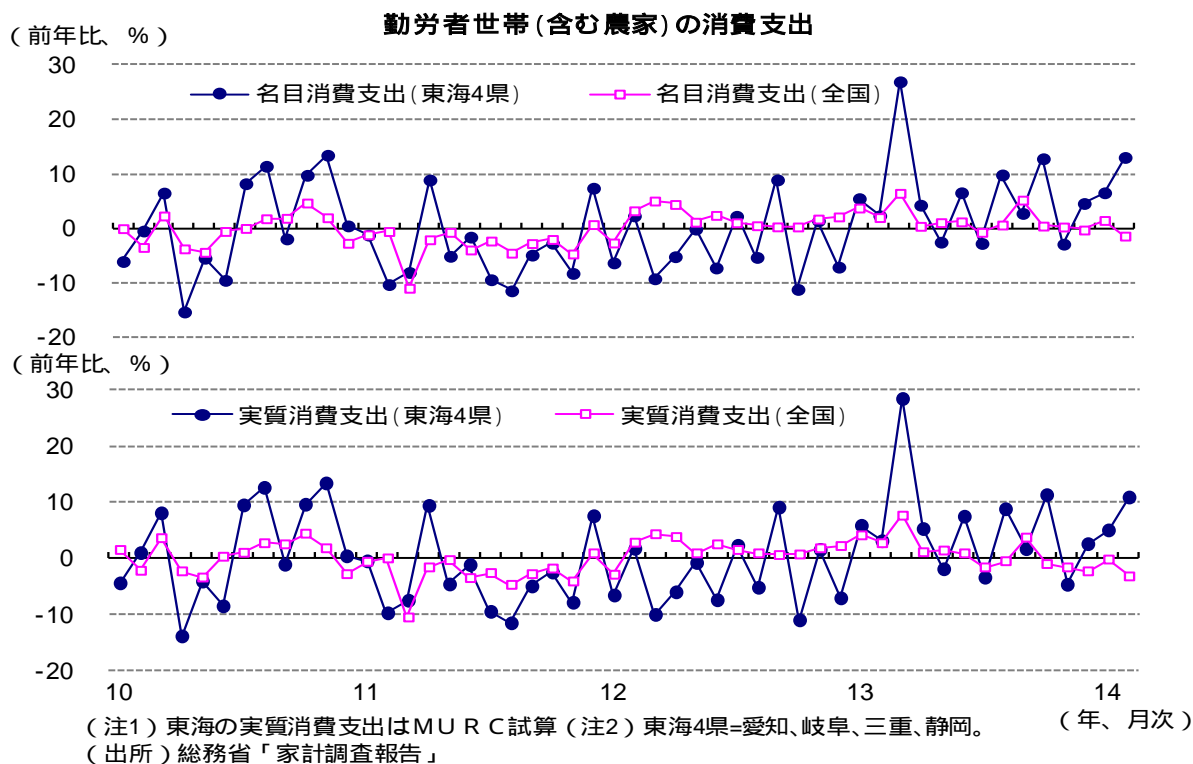


家計調査によると、2月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比+1.0%と6ヶ月連続で増加した。2月の定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は前年比-0.9%と2ヶ月連続で減少した。

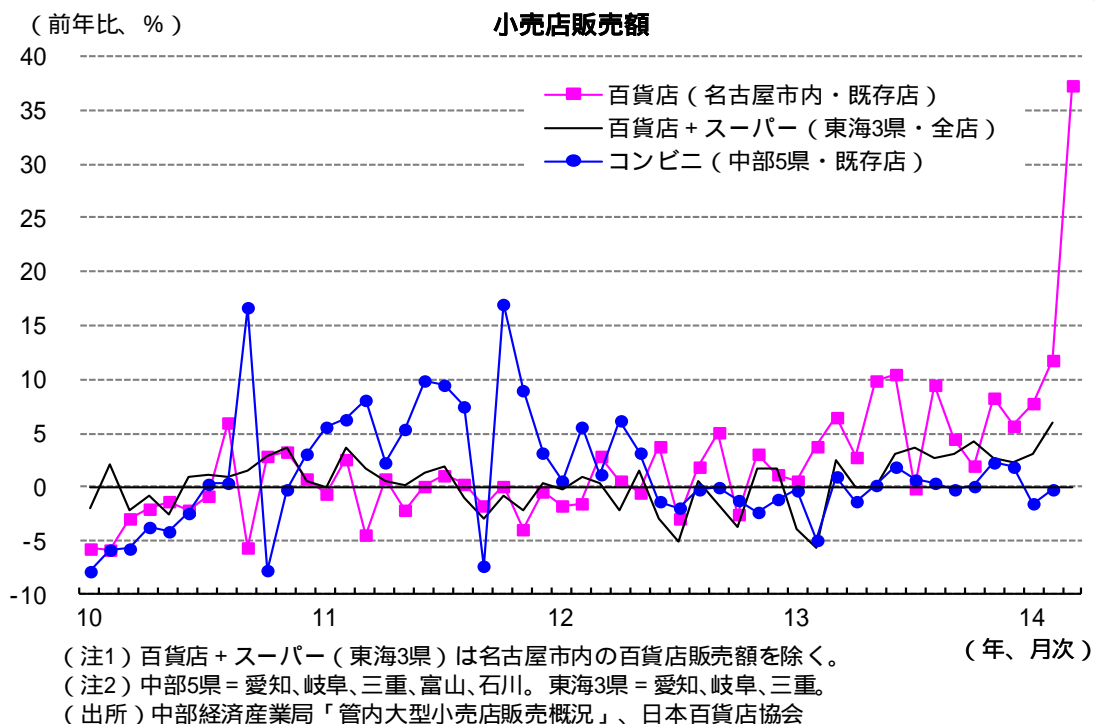


5. 個人消費 ～増税前の駆け込み需要もあり持ち直している

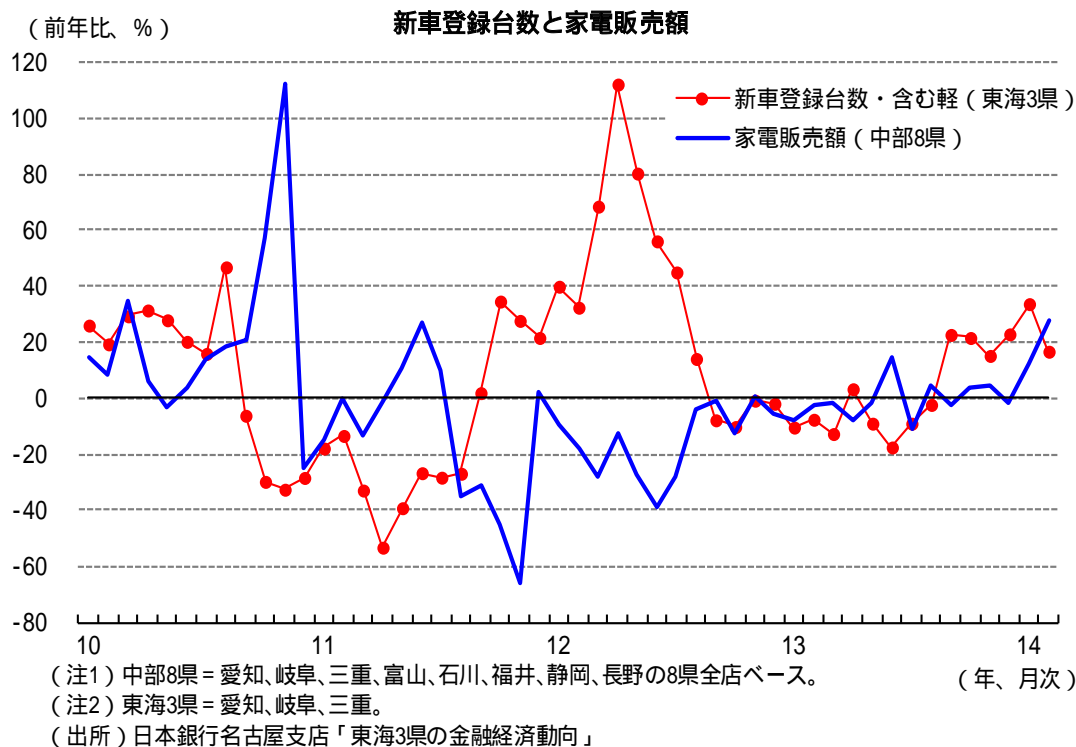
2月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出は、前年比+13.0%と3ヶ月連続で増加した。株価が乱高下し、消費者マインドも急速に低下する中で、名目・実質消費支出とも均してみると持ち直し傾向が続いている。今後は、増税後の反動減は避けられないものの、春闘の妥結結果が消費者マインドの持ち直しに寄与し、消費は持ち直し基調を続けるだろう。



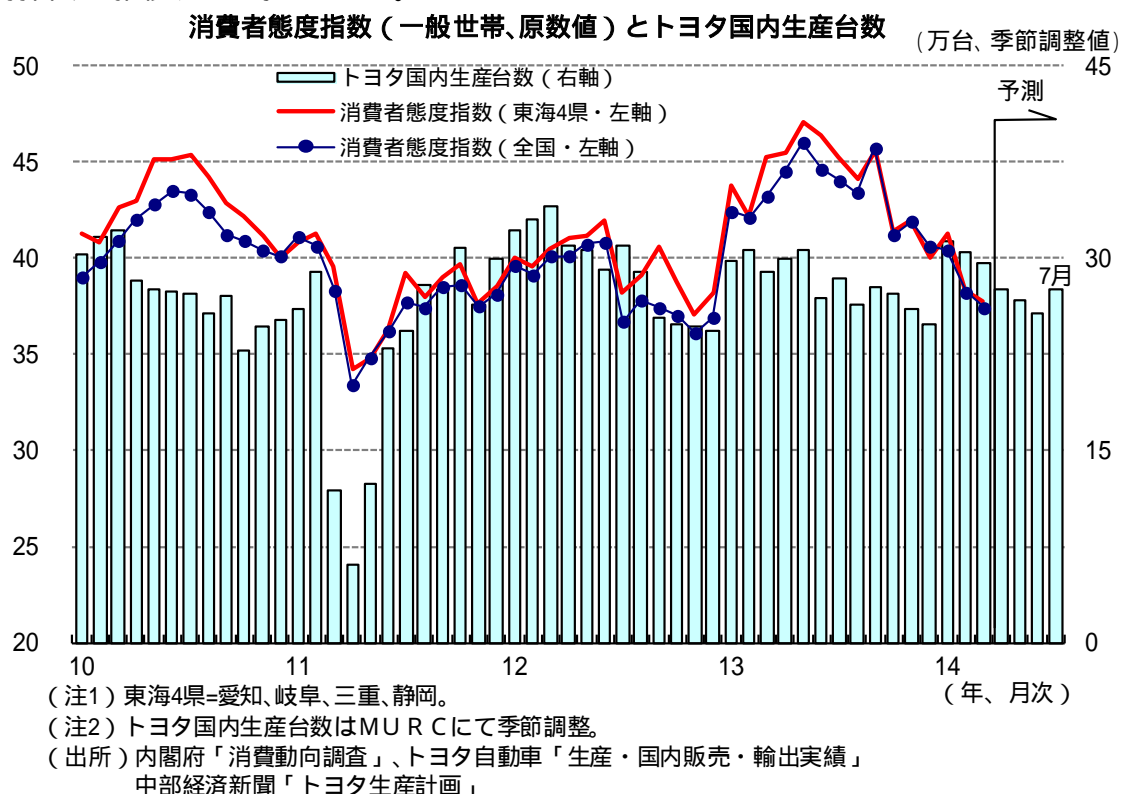
3月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比+37.3%と8ヶ月連続で大幅に増加した。増税前の駆け込み需要は百貨店で大きくなり、高級時計や宝飾品、ブランド品などの高額品が好調だった。2月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額は同+5.9%と12ヶ月連続で増加したが、中部5県のコンビニ販売額は新規出店の増加に伴う競争激化で同-0.2%と2ヶ月連続で減少した。



2月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比+16.8%と6ヶ月連続で増加した。増税前の駆け込み需要に加え、ガソリン高に伴って低燃費のハイブリッド車やコンパクトカーの販売が好調に推移した。3月中旬以降は登録に間に合わないケースも出てくるため、徐々にピークアウトするとみられる。2月の中部8県の家電販売額も駆け込み需要を背景に同+28.1%と2ヶ月連続で増加した。

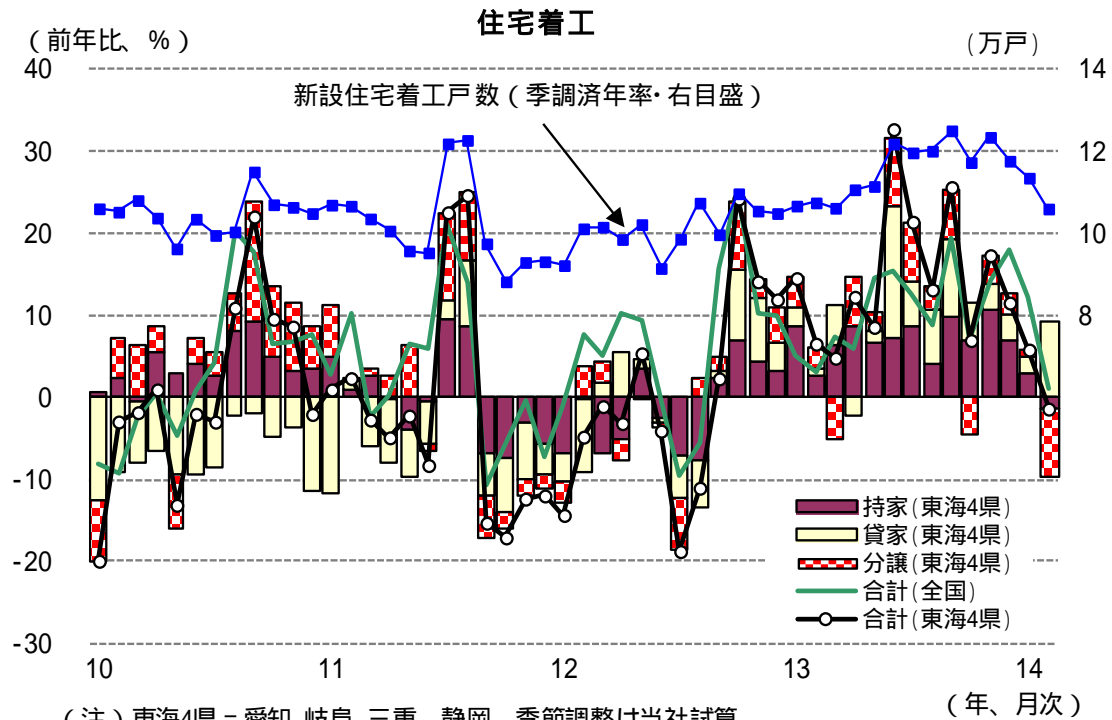


消費者マインドを表す3月の消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、前月比-0.6ポイントと、2ヶ月連続で悪化した。トヨタの国内生産は比較的高水準を維持しているものの、株価の不安定な動きが続く中、増税後の反動を想定し、消費者マインドは悪化傾向を辿っている。消費者マインドは当面、弱含みで推移すると予想される。



6. 住宅投資 ～緩やかに減少している

2月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比 - 6.6%と3ヶ月連続で減少した。前年比では - 1.4%の8,351戸と18ヶ月ぶりの減少となった。利用関係別の寄与度では、持家が前年比 - 1.4%、貸家が同 + 9.3%、分譲は同 - 8.4%と貸家がプラスに寄与した。昨年9月末の契約ベースでの現行税率適用期限前の駆け込み需要が一段落した後、着工ベースでは徐々に水準を切り下げている。

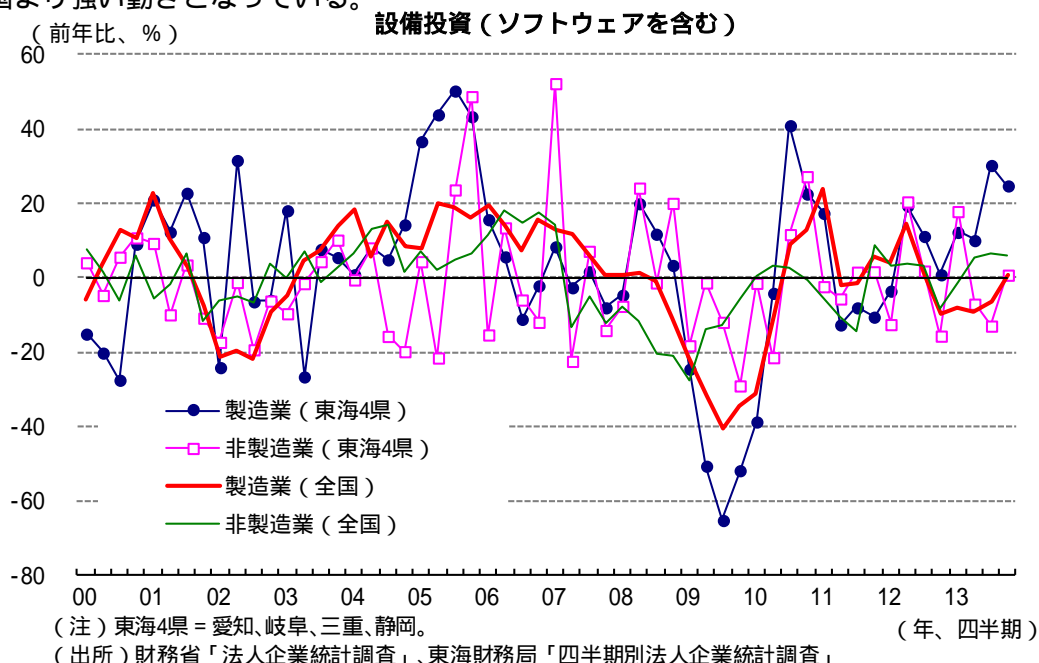


(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社試算。

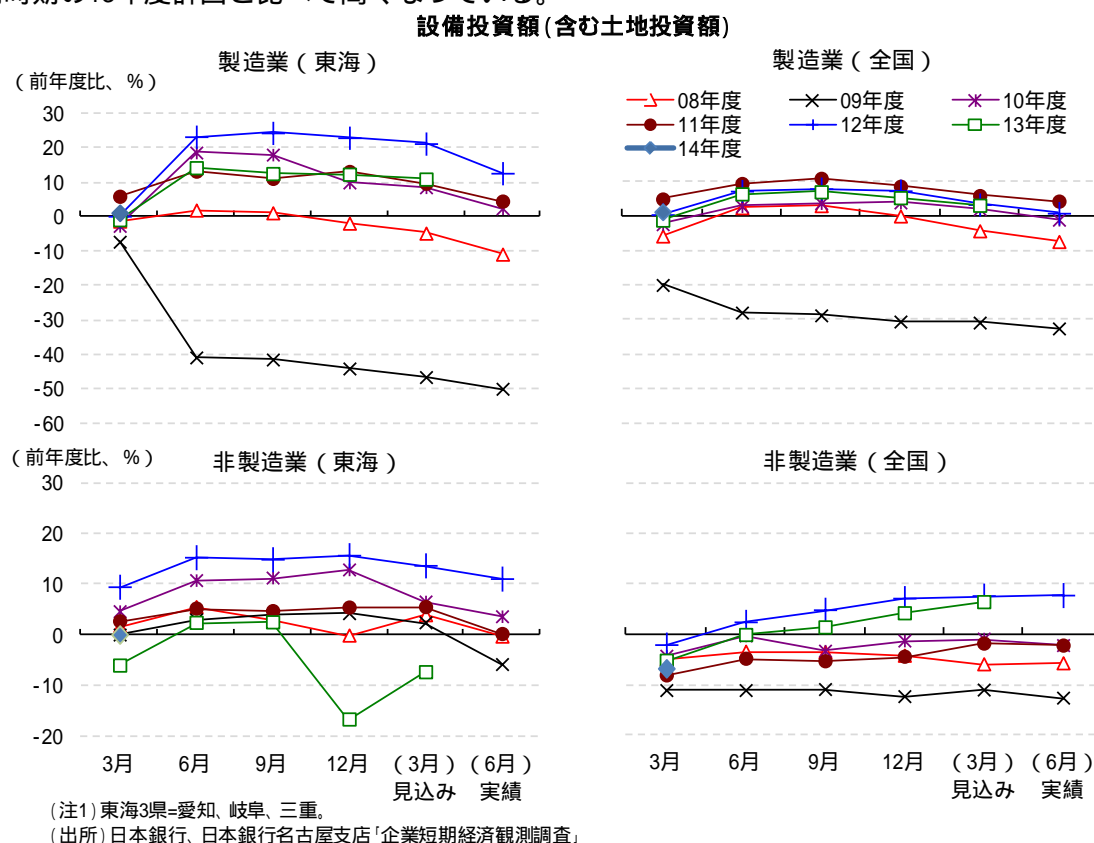
(出所) 国土交通省「建設着工統計」

7. 設備投資 ～製造業を中心に増加している

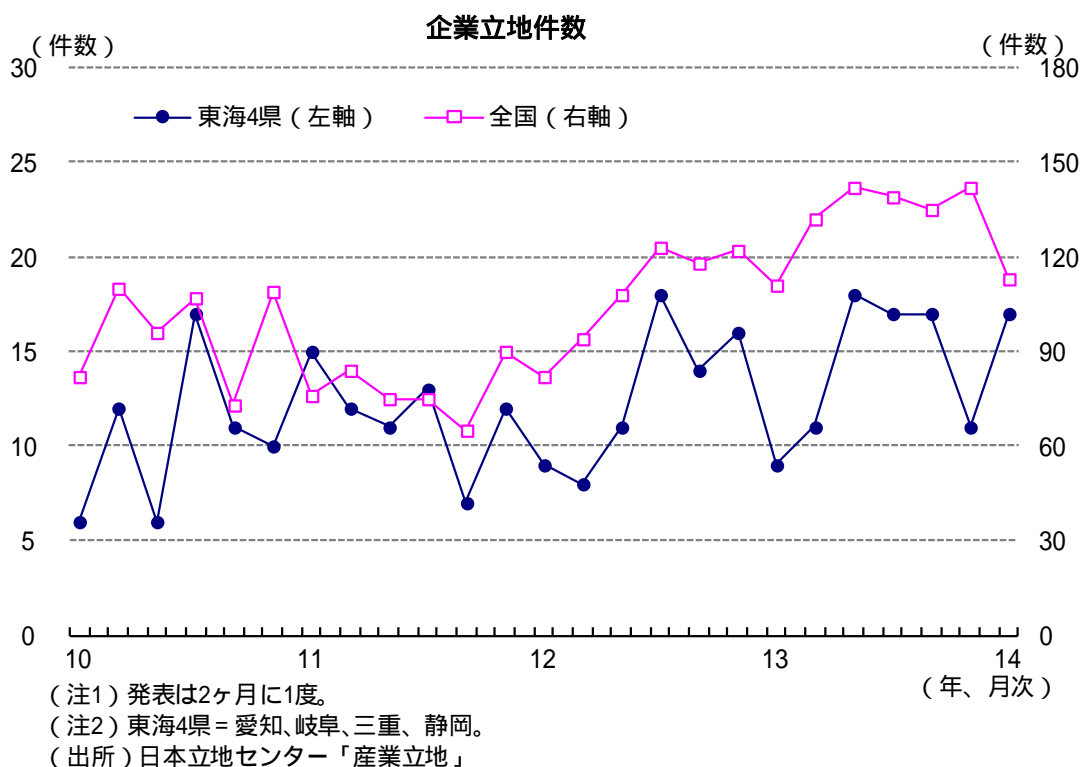
2013年10～12月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+11.6%と4四半期連続で増加し、増加幅も前期7～9月期(+7.4%)から拡大した。非製造業の設備投資が前年比+0.8%、製造業が前年比+24.8%と増加した。全国は非製造業の設備投資を中心に増加しているが、東海では製造業が全国より強い動きとなっている。



日銀短観3月調査では、13年度の設備投資が、製造業で維持・更新投資などを中心に前年比+11.0%と増加見込みとなる一方、非製造業では電気・ガス的大幅な下方修正が響き、同-7.3%と減少見込みとなっている。14年度計画は、製造業が同+1.2%、非製造業が同0.0%となっており、それぞれ前年同時期の13年度計画と比べて高くなっている。

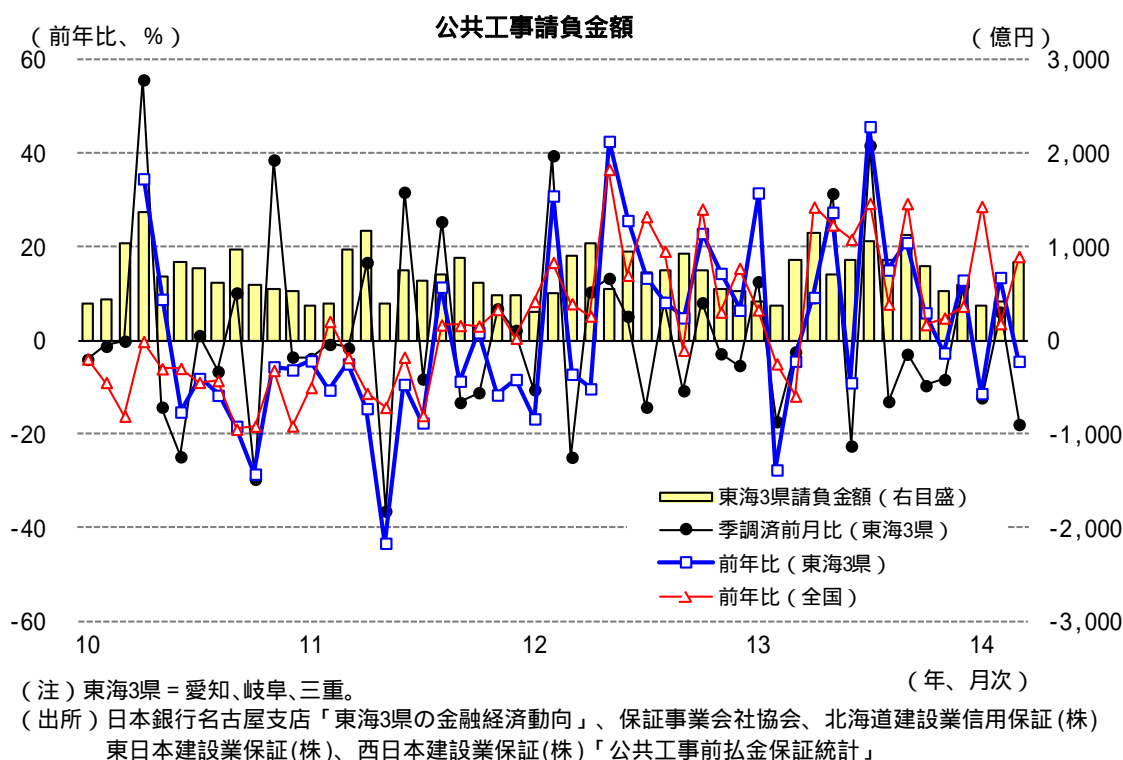


2013年12月・2014年1月の東海4県の企業立地件数は17件と、前期（11件）から6件増加し、前年同期（9件）と比べても8件増加した。東海地域では、2012年以降、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んでいたが、全国の動きにやや追いついてきた。



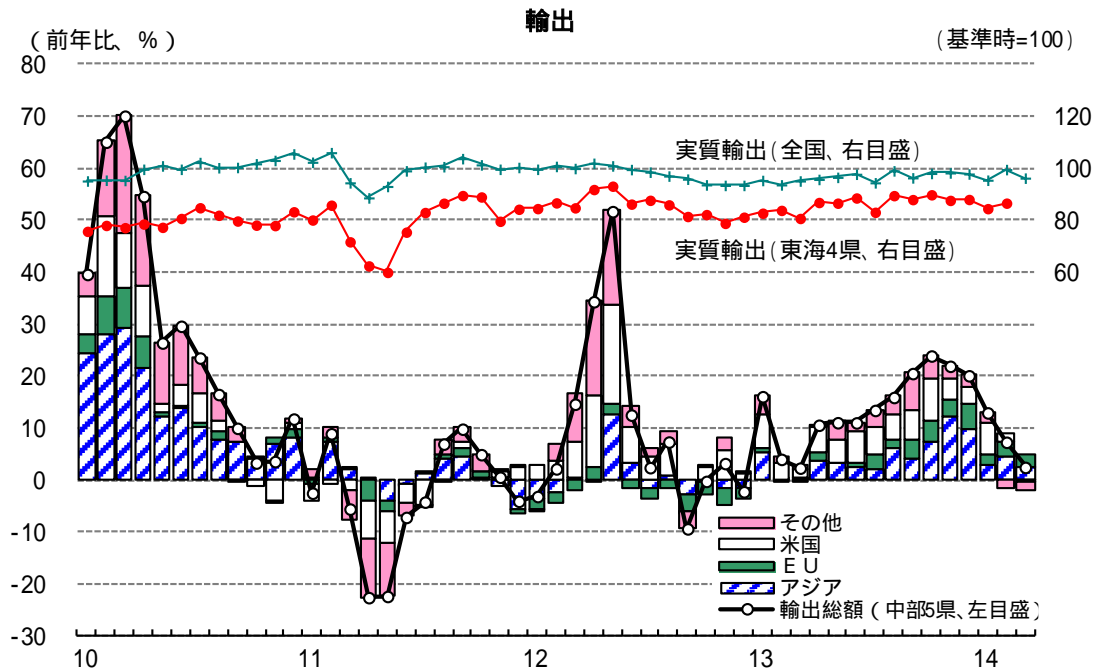
8. 公共投資 ～増加が一服している

3月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 - 4.3%の835億円と2ヶ月ぶりに前年を下回った。発注者別では、国が同 + 8.5%と2ヶ月連続で増加したが、地方は同 - 11.1%と2ヶ月ぶりに減少した。季調済み前月比も - 17.8%と2ヶ月ぶりの減少となった。12年度の国の補正予算の執行に伴う緊急経済対策に係る工事の請負は一段落し、均してみると前年並み水準で推移している。



9. 輸出入 ～輸出は減少傾向、輸入は増加傾向

2月の実質輸出（季調済）は、前月比+2.5%と2ヶ月ぶりに増加した。3月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比+2.5%と15ヶ月連続で増加したが伸びは鈍化した。アジア向けは同+5.8%と15ヶ月連続で増加し、EU向けも同+24.7%と12ヶ月連続で増加したが、米国向けが同-1.9%と18ヶ月ぶりに減少した。米国向けの増加が一巡しており、当面は減少傾向での推移が予想される。



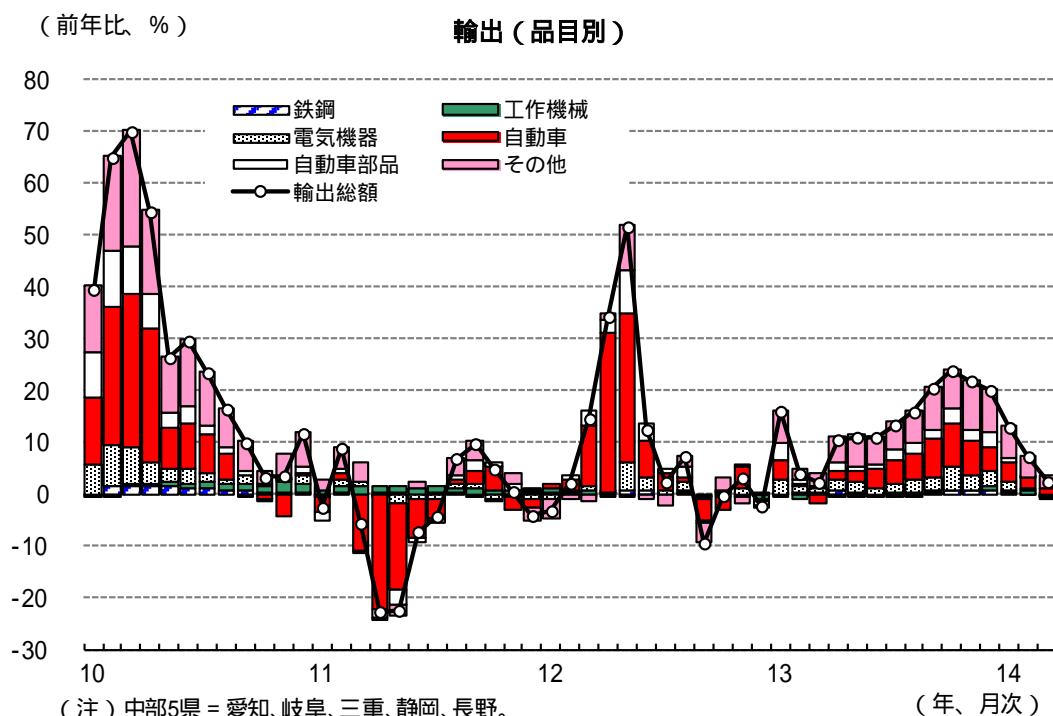
(注1) 実質輸出 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。 (年、月次)

(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」

日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

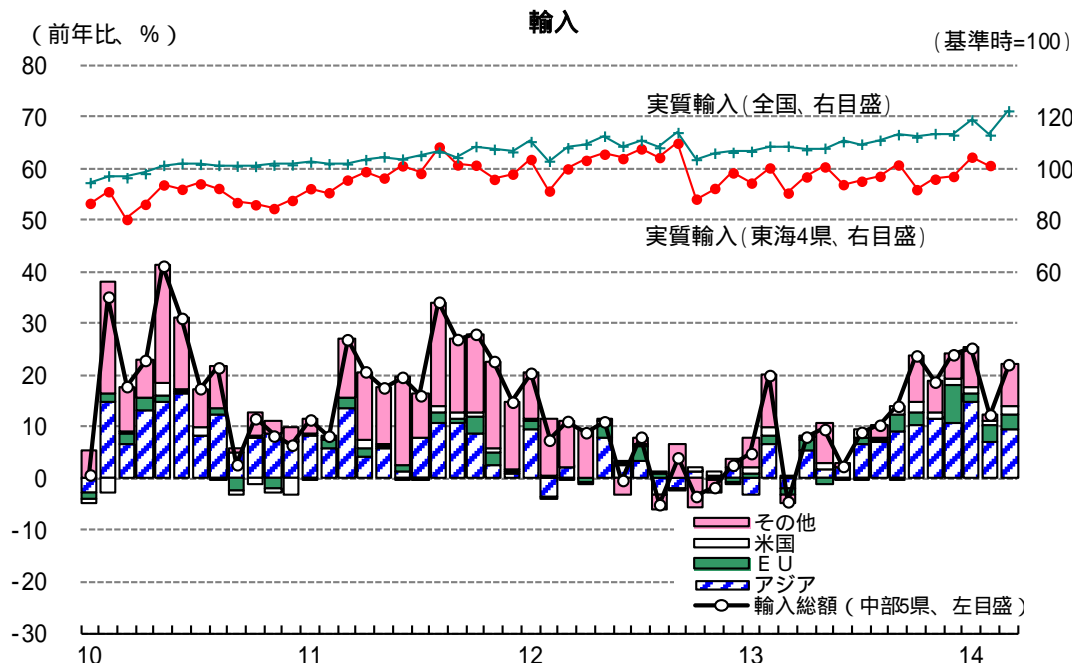
3月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比+3.7%）は増加したものの自動車部品（同-5.3%）が15ヶ月ぶりに減少したほか、鉄鋼（同-4.6%）が9ヶ月ぶり、工作機械（同-1.3%）が7ヶ月ぶり、電気機器（同-2.4%）が15ヶ月ぶりに減少した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」

2月の実質輸入(季調済)は前月比-3.1%と4ヶ月ぶりに減少したが、増税前の駆け込み需要もあり、このところ変動しながらも増加傾向で推移している。3月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+22.1%と12ヶ月連続で増加した。増税後は、駆け込み需要に伴う輸入増の反動が見込まれ、実質輸入は低下した後、横ばい圏で推移すると予想される。



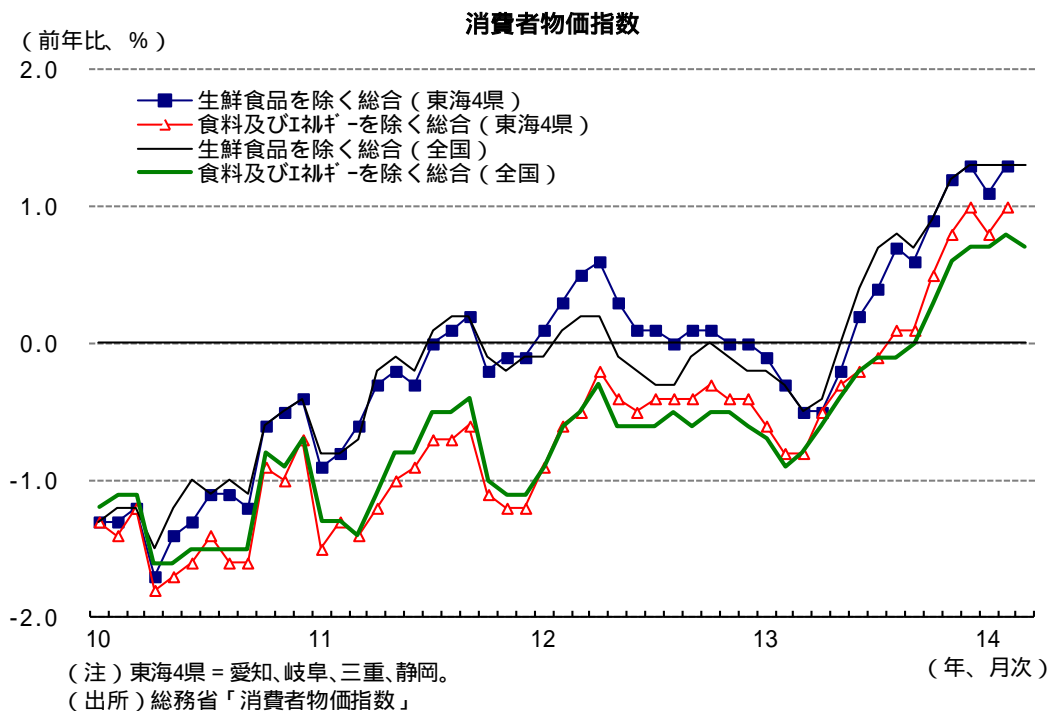
(注1) 実質輸入 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。 (年、月次)

(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

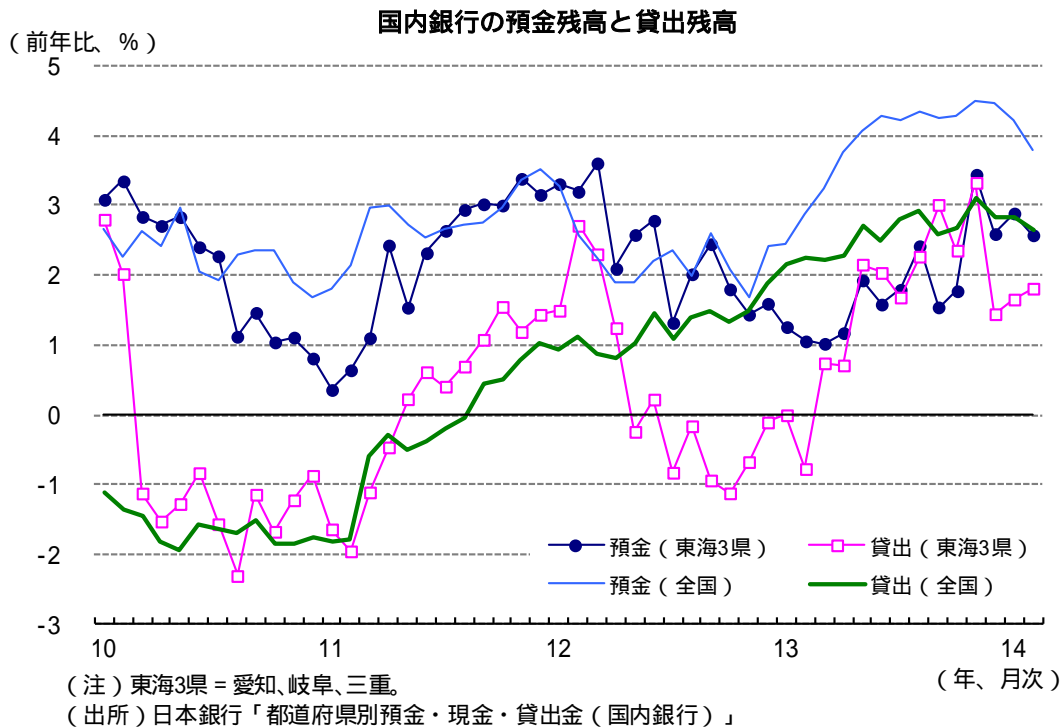
10. 物価 ~ 消費者物価は上昇

2月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で、前年比+1.3%と9ヶ月連続のプラスとなった。電気・ガス料金やガソリン代、洋服などの上昇が寄与した。食料・エネルギーを除く総合は、同+1.0%と7ヶ月連続のプラスとなった。輸入物価上昇に伴うコストアップ要因は一巡しつつあるが、需給の引き締めにより幅広い品目で値上げが見込まれ、今後も、物価は上昇傾向が続くとみられる。



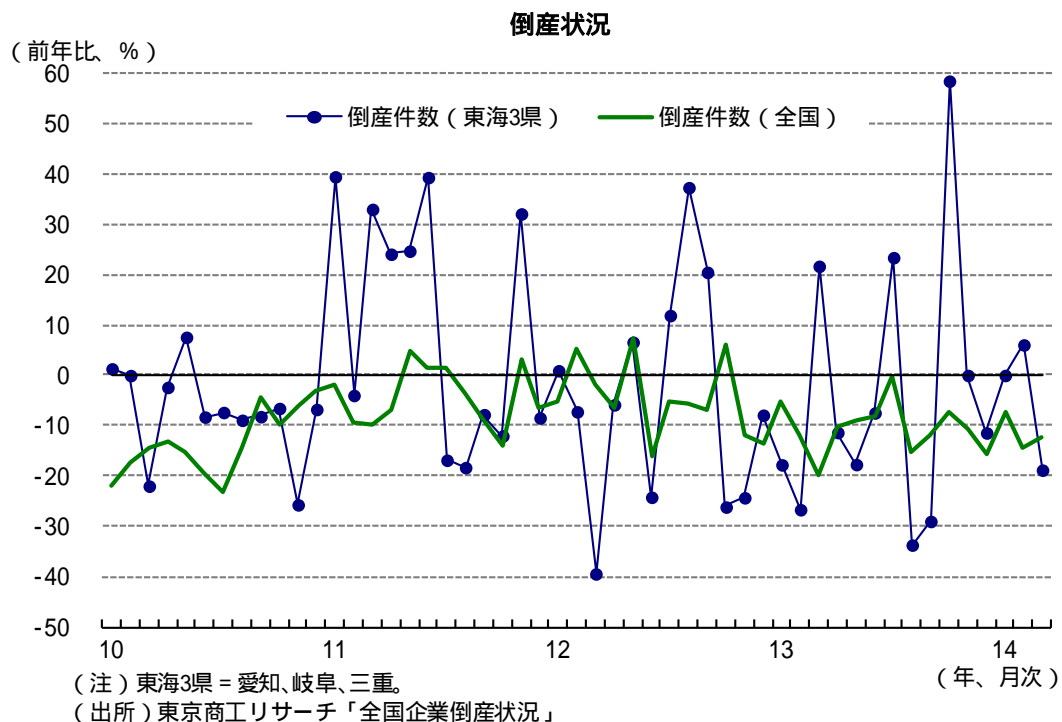
11. 金融 ～ 預金、貸出ともに増加

2 月の東海 3 県の預金残高（国内銀行ベース）は、個人預金が堅調に推移し、前年比 +2.6% と増加が続いている。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は、同 +1.8% と 12 ヶ月連続で増加したが、一部企業での M & A 関連の大口貸出の寄与が一巡し、増加率は大幅に縮小している。自動車の増産局面では運転資金の需要が見込まれるため、貸出残高はやや増加基調で推移している。



12. 倒産 ～ 倒産件数は減少、負債総額は増加

3 月の東海 3 県の倒産件数は 82 件と、前年比で -18.8% 減少した。愛知県（同 -33.8%）は 2 ヶ月連続で減少、三重県（同 -66.7%）は 3 ヶ月ぶりに減少したが、岐阜県（同 +93.3%）は 2 ヶ月連続で増加した。3 月の東海 3 県の負債総額は、同 +11.3% の 126 億円と 4 ヶ月ぶりに増加した。年度全体では、製造業や小売業、運輸業などで倒産が減少し、負債総額としては過去 10 年間で最低となった。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	→	輸出	全国	→	☁	↗
	東海	↗	☁	↘		東海	↘	☁	→
	関西	↗	☁☔	→		関西	→	☁☔	↗
個人消費	全国	↗	☁	↘	輸入	全国	↗	☀	↘
	東海	↗	☁	↘		東海	↗	☁	↘
	関西	↗	☁	↘		関西	→	☁	→
住宅投資	全国	↘	☁	↘	生産	全国	↗	☁	↘
	東海	↘	☁	↘		東海	↗	☁☀	↘
	関西	↘	☁	↘		関西	↗	☁☔	→
設備投資	全国	→	☁	↗	雇用	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁	→		東海	→	☁	→
	関西	↗	☁☔	↗		関西	↗	☁	↗
公共投資	全国	↗	☁	→	賃金	全国	→	☔	→
	東海	→	☁	↗		東海	↗	☁	↗
	関西	→	☁	→		関西	↘	☔	→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は4月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		3月のコメント	4月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	増税前の駆け込み需要もあり増加している	増勢は一服
	東海	駆け込み需要により増加している	増税前の駆け込み需要による増勢は一服
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	下げ止まりつつある	緩やかに減少している
5. 個人消費	全国	増税前の駆け込み需要もあり増加している	増税前の駆け込み需要もあり増加している
	東海	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	増税後の駆け込み需要もあり持ち直している
6. 住宅投資	全国	横ばい	減少している
	東海	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	関西	増加が一服している	減少している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している
	関西	非製造業を中心に持ち直している	非製造業を中心に持ち直している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	増加が一服している	増加が一服している
9. 輸出入	全国	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加傾向
	東海	輸出は減少、輸入は増加	輸出は減少傾向、輸入は増加傾向
	関西	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加	輸出は横ばい、輸入は増加傾向
10. 物価	全国	国内企業物価、消費者物価はともに上昇	国内企業物価は上昇ペースが鈍化、消費者物価は上昇
	東海	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
	関西	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は横ばい、負債総額は減少	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。